

平成25年度 予算概算要求の重点事項

平成24年9月

国土交通省近畿地方整備局

平成25年度 近畿地方整備局予算概算要求のポイント

平成25年度の近畿地方整備局予算については、昨年の台風12号による紀伊半島大水害や、近年多発するゲリラ豪雨等の発生を踏まえ、近畿における災害に強い社会基盤整備をはじめとする国民生活の安全・安心の確保に向けた取り組みを引き続き進めていきます。また、近畿の国際競争力向上を図り、首都圏のバックアップ機能を支える社会基盤整備として、国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の整備や、近畿圏の環状道路ネットワークにおけるミッシングリンクの整備を着実に進めていきます。

以下2ページにわたって、平成25年度予算概算要求におけるポイントを示します。

I. 防災・減災対策をはじめとする国民生活の安全・安心の確保

《防災・減災対策の推進》

■平成23年台風12号災害等の激甚な水害・土砂災害が生じた地域等における災害対策

・河道閉塞等に起因する土砂災害への対応(直轄)
..... 2億



・平成23年洪水への対応
くまのがわ
熊野川河川激甚対策特別緊急事業(直轄)
..... 3億



・洪水被害から流域住民の暮らしを守るダム事業
あすわがわ
足羽川ダム(直轄) 6億



■和歌山下津港海岸(海南地区)における津波対策の推進

・直立浮上式津波防波堤の整備(直轄)
..... 8億

《公共交通等の安全・安心の確保》

■通学路等における安全で安心な歩行空間の創出(直轄)

..... 13億



II. 持続可能で活力ある国土・地域の形成とこれを通じたデフレ脱却と経済活性化

《国際競争力強化に向けた活力ある国土・都市・地域の形成》

■環状道路ネットワークの整備

- ・京奈和自動車道(大和御所道路、紀北東道路)の整備(直轄) 16◇



■ミッシングリンクの整備

- ・近畿自動車道紀勢線(田辺～すさみ)の整備(直轄) 18◇



- 国際コンテナ戦略港湾「阪神港」における総合的な対策(直轄) 19◇～20◇

- 日本海側拠点港「京都舞鶴港」の機能強化(直轄) 20◇



平成25年度 近畿地方整備局管内 開通予定・完了予定箇所(直轄)

【開通予定・完了予定箇所】

(道路事業)

- 京奈和自動車道 大和御所道路(大和郡山JCT～郡山南IC)(L=1.6km(4/4))
- 京奈和自動車道 紀北東道路(紀北かつらぎIC～打田IC)(L=12.9km(4/4))

(官庁営繕事業)

- 神戸地方合同庁舎(耐震改修)(兵庫県神戸市)
- 京都地方合同庁舎(新築整備)(京都府京都市)

平成25年度 予算概算要求の重点事項

目 次

1. 平成25年度近畿地方整備局予算概算要求の 基本方針	1
I. 防災・減災対策をはじめとする国民生活の 安全・安心の確保	2
(1) 防災・減災対策の推進	2
(2) 社会資本の適確な維持管理・更新	11
(3) 公共交通等の安全・安心の確保	12
II. 持続可能で活力ある国土・地域の形成とこ れを通じたデフレ脱却と経済活性化	14
(1) 持続可能な社会の実現	14
(2) 国際競争力強化に向けた活力ある 国土・都市・地域の形成	15
III. その他主要事業	21
2. 主な開通予定箇所、完了予定箇所等	23

1. 平成25年度近畿地方整備局予算概算要求の基本方針

○平成25年度予算の重点事項

大規模災害等に備えつつ、災害に強い国づくりに向け、防災・減災対策等を推進するとともに、民間活力の活用を図りつつ、ハード・ソフト両面から施策を推進し、持続可能で活力ある国土・地域の形成及びこれを通じたデフレ脱却・経済活性化（モノ・人・お金を動かす）を図ることとし、これらの分野に重点を置き、「選択と集中」を徹底し、予算のメリハリをつける。

各事業・施策分野においては、その目的・成果に踏み込んできめ細かく重点化し、限られた予算で最大限の効果の発現を図る。

○平成25年度予算の主な事項

I. 防災・減災対策をはじめとする国民生活の安全・安心の確保

(1) 防災・減災対策の推進

<水害・土砂災害等対策>

- 平成23年台風12号災害等の激甚な水害・土砂災害が生じた地域等における災害対策
- 予防的な治水対策の強化
- 洪水被害から流域住民の暮らしを守るダム事業
- 六甲山系における砂防施設の整備

<東日本大震災の教訓を踏まえた地震・津波対策>

- 和歌山下津港海岸(海南地区)における津波対策の推進
- 防災拠点となる官庁施設等の安全性の確保
- 河川管理施設の地震・津波対策
- 道路の防災・震災対策

(2) 社会資本の適確な維持管理・更新

- 河川管理施設の戦略的な維持管理・更新
- 橋梁の長寿命化対策

(3) 公共交通等の安全・安心の確保

- 事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)の推進
- 通学路等における安全で安心な歩行空間の創出

II. 持続可能で活力ある国土・地域の形成とこれを通じたデフレ脱却と経済活性化

(1) 持続可能な社会の実現

<低炭素・循環型システムの構築>

- 海洋環境整備事業の推進(瀬戸内海)
- フェニックス事業の推進(大阪湾)

(2) 国際競争力強化に向けた活力ある国土・都市・地域の形成

<交通インフラ・ネットワークの機能拡充・強化>

- 環状道路ネットワークの整備
- ミッシングリンクの整備
- 国際コンテナ戦略港湾「阪神港」における総合的な対策
- 日本海側拠点港「京都舞鶴港」の機能強化

III. その他主要事業

- 国営公園の整備促進
- 生態系の保全を促進する自然再生に係る事業

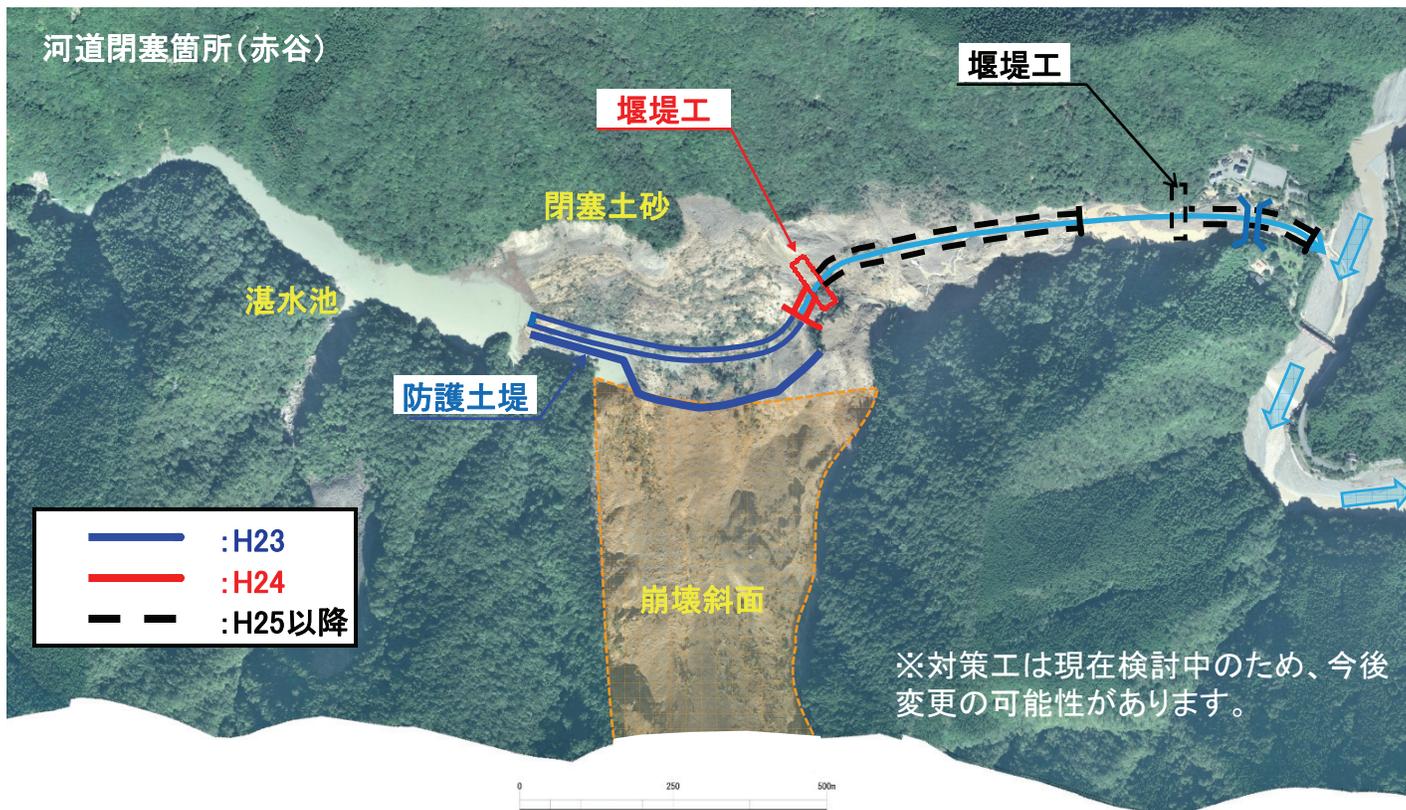
平成23年台風12号災害等の激甚な水害・土砂災害が生じた地域等における
災害対策 【直轄】

◇河道閉塞等に起因する土砂災害への対応

平成23年9月台風12号により生じた、奈良県及び和歌山県内の河道閉塞箇所(赤谷、長殿、栗平、熊野、北股)について土砂災害防止法に基づく緊急調査を経て必要な対策を進めるとともに、大規模土砂災害箇所(宇井、坪内、三越)及び那智川の土石流被害箇所についても、流域の安全確保のため必要な対策を進めます。

平成25年度実施予定

- 河道閉塞箇所(赤谷、長殿、栗平、熊野、北股):閉塞土砂の崩壊を防ぐため、閉塞土砂の端部を抑える砂防堰堤を設置します。
- 大規模土砂災害箇所(宇井、坪内、三越):斜面に残る崩壊土砂の排土を実施します。
- 土石流被害箇所(那智川):平成24年度に引き続き砂防堰堤を設置します。



◇平成23年洪水への対応

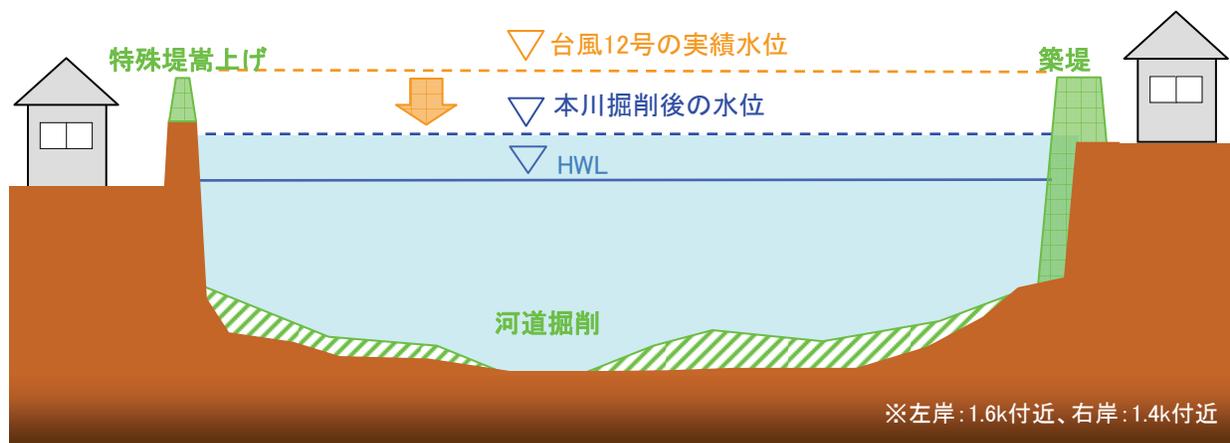
熊野川河川激甚災害対策特別緊急事業

おの だに
熊野川及び支川相野谷川では、平成23年9月台風12号による計画規模を超える洪水により、浸水家屋が3,000戸を超える甚大な被害が生じたことから、平成23年度より直轄河川災害復旧事業を実施し、平成24年度からは河川激甚災害対策特別緊急事業により、河道掘削及び築堤等を実施しています。平成25年度については、引き続き河道掘削や築堤を実施し、再度災害防止を図ります。



■平成25年度災害復旧の概要

※河道掘削、築堤、堤防強化、橋脚補強



※本川掘削後の水位は一定の条件による計画値であり全ての条件において必ずしも保証されるものではない。

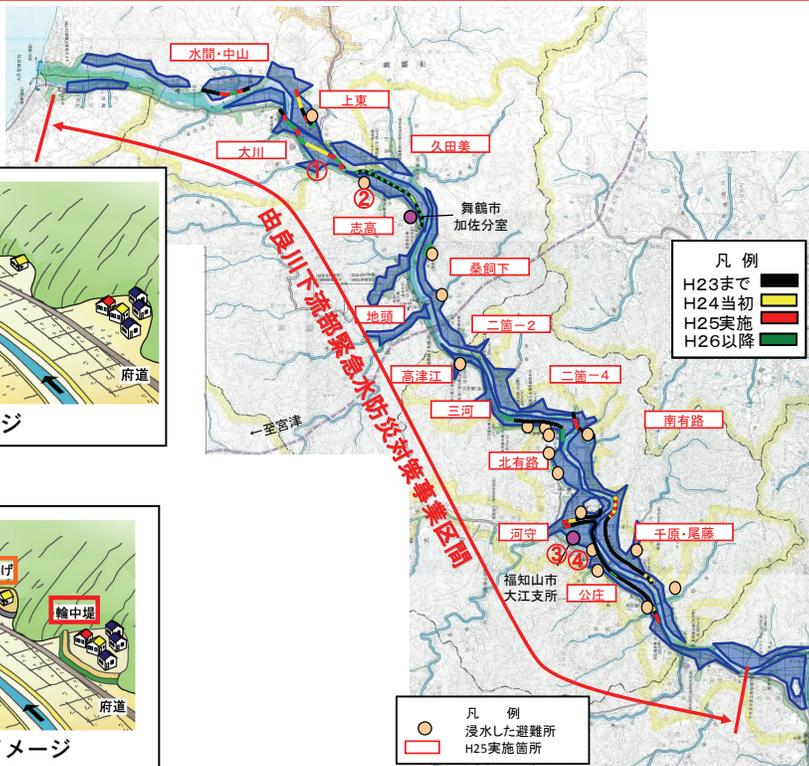
◇平成16年洪水への対応

由良川土地利用一体型水防災事業

平成16年10月台風23号により甚大な被害が発生した由良川では、18地区で輪中堤の整備や宅地嵩上げを平成26年度完成に向けて継続実施します。



平成16年台風23号により水没したバスから住民を救出(志高地区)



◇平成21年洪水への対応

円山川下流部治水対策

平成16年10月台風23号に対する激甚災害対策特別緊急事業(平成22年度終了)に続き、平成21年8月洪水に対応した特殊堤を整備します。平成25年度は下流部で無堤対策を進め、段階的に治水安全度を向上させていきます。



予防的な治水対策の強化

【直轄】

平成24年7月の九州の豪雨災害を踏まえ、管内の直轄河川の堤防等の緊急点検を行いました。この結果を踏まえて、ハード・ソフトの総合的な緊急対策を実施します。

近畿管内の一級水系の直轄河川堤防延長 **L=約1,030km** ※堤防不要区間を除く

↓ 洪水等に際して水防上特に注意を要する箇所、又はそれと同程度の箇所を抽出

近畿管内 点検対象堤防延長 **L=約740km**

↓ 今回の被災を踏まえて、被災履歴、堤防詳細点検結果等、既存データを活用しつつ再確認

点検結果

要対策延長 **L=300km**

○堤防の浸透に対する安全性

- ・過去の漏水実績等、浸透により堤防が崩壊するおそれのある箇所
→約100km



砂でつくられた堤防(木津川下流)

- ・旧河道跡等、パイピング(地盤内にパイプ状の水の通りみちができること)により堤防が崩壊するおそれのある箇所
→約90km



洪水時の漏水(貴志川)

○流下能力の不足箇所

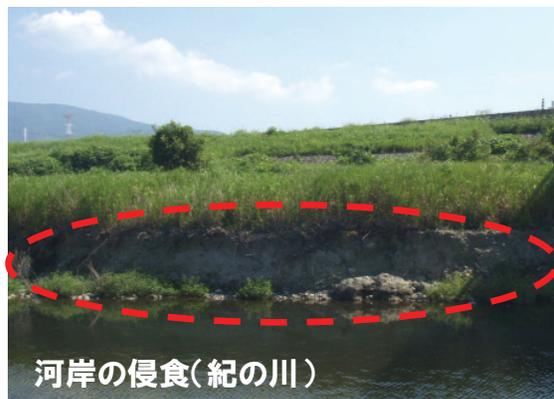
- ・無堤や、堤防高が局所的に低い等、当面の目標に対して流下能力が不足している箇所
→約120km



平成16年台風23号時の浸水(由良川)

○水衝部等の侵食に対する安全性

- ・河床が深掘れしている箇所や水衝部(洪水の流れが堤防に直接あたる箇所)等、河岸侵食・護岸損壊のおそれがある箇所
→約20km



河岸の侵食(紀の川)

洪水被害から流域住民の暮らしを守るダム事業

【直轄】

ダム事業は、河川改修とあいまって洪水を貯留することにより、下流の水位低下を図るとともに、貯留した水による安定的な都市用水の供給・発電を行い、安全・安心な生活を支えます。

継続して実施する天ヶ瀬ダム再開発は、計画的に事業を推進するための予算としています。

検証の対象となっている大戸川ダムは、「今後の治水のあり方に関する有識者会議」から提示された中間とりまとめに沿って、検討を実施します。足羽川ダムは、平成24年7月に、国土交通大臣により、「継続」との対応方針を決定しており、その結論に沿って適切に対応します。

【検証対象外事業】

○天ヶ瀬ダム再開発（淀川水系宇治川）

平成25年度は再開発工事(トンネル式放流設備)を継続して実施します。



【検証対象事業】

○大戸川ダム（淀川水系大戸川）

生活再建工事段階

○足羽川ダム（九頭竜川水系足羽川）

調査・地元説明段階

平成24年7月に、国土交通大臣により、「継続」との対応方針を決定しました。



六甲山系における砂防施設の整備

【直轄】

平成25年度は、災害時の避難に支援が必要な人々の関連施設や京阪神間を結ぶ重要交通網などの重要施設等を保全する砂防施設の整備を推進します。あわせて、斜面对策や山腹工などの施設整備や森林の保全・育成を図る六甲山系グリーンベルト整備事業を、市民団体、企業、学校等との協働により推進します。

砂防施設の整備

平成25年度は引き続きユルキ谷砂防堰堤などの堰堤等の整備を実施します。

ユルキ谷砂防堰堤位置図



六甲山系グリーンベルト整備事業

平成24年度に引き続き、森林整備や斜面对策などを実施します。

施設整備



斜面对策(法枠工)

森林整備



企業による森づくり活動の様子

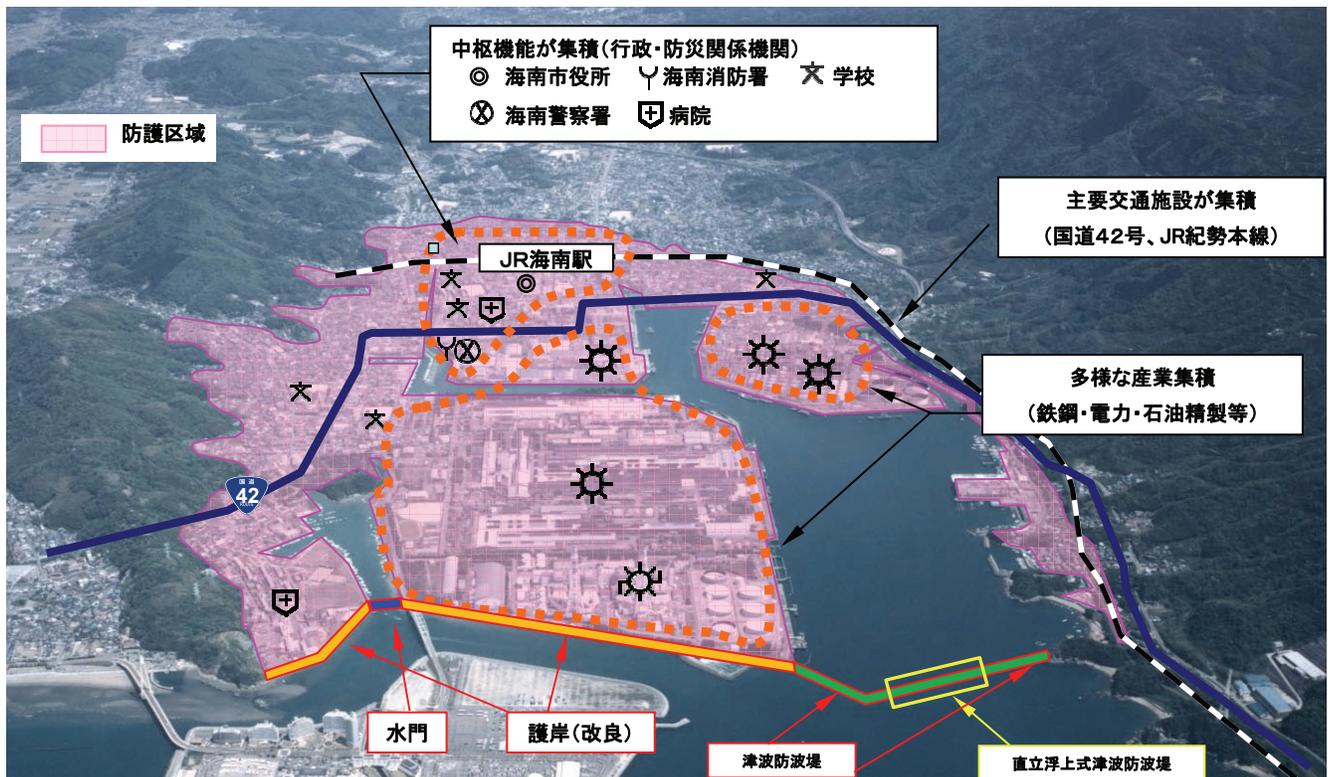
和歌山下津港海岸(海南地区)における津波対策の推進

【直轄】

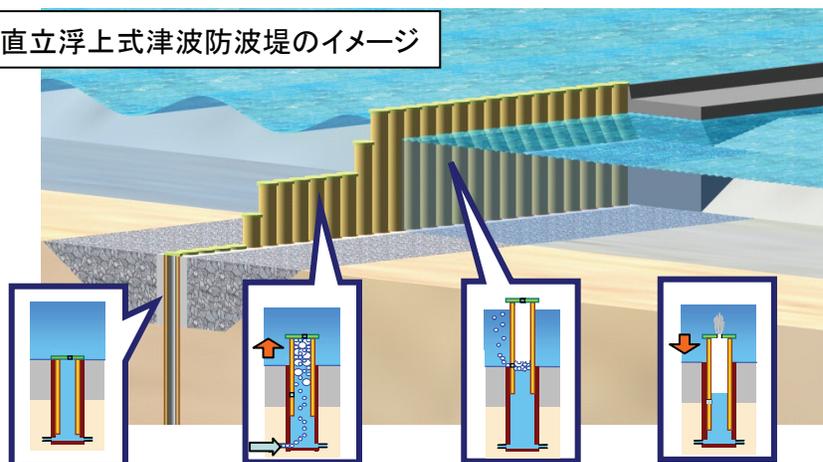
和歌山県海南市における津波浸水予測区域では、行政・防災中枢機能や高付加価値製品製造企業が集積しており、今後30年以内に60～70%の確率で発生するとされている東南海・南海地震等が発生した場合に甚大な被害の発生が危惧されています。このため人命・財産はもとより、これら施設の防護のため海岸保全施設の整備を推進します。

《平成25年度の予定》

直立浮上式津波防波堤及び水門等の整備を推進します。



直立浮上式津波防波堤のイメージ



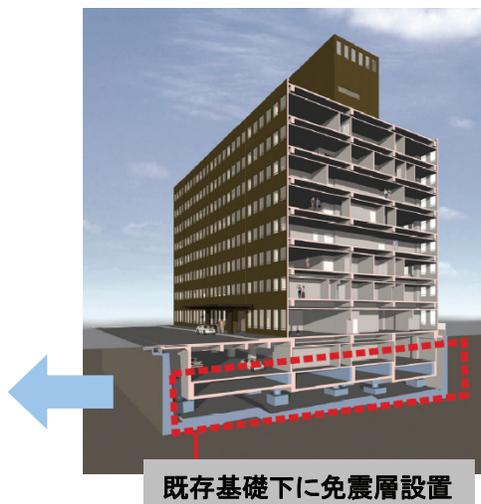
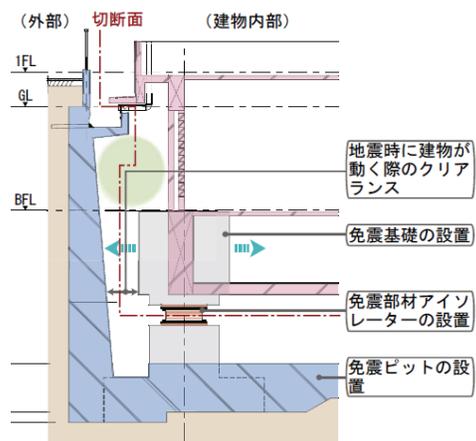
防災拠点となる官庁施設等の安全性の確保

【直轄】

○官庁施設の耐震化の推進

耐震性能を満たさない官庁施設の耐震化を行うとともに、防災合同庁舎等の防災機能強化を図り、総合的な耐震安全性を確保します。

【耐震化(免震工法事例)のイメージ図】



既存基礎下に免震層設置

【主な事業】 ○神戸地方合同庁舎(兵庫県神戸市)

○神戸第2地方合同庁舎(兵庫県神戸市)

○官庁施設の津波対策の推進

東日本大震災における官庁施設の津波被害及び「津波対策の推進に関する法律」を踏まえ、官庁施設における津波対策を総合的かつ効果的に推進します。

【津波対策の主な実施項目】

津波後の電力・水の持続的な供給

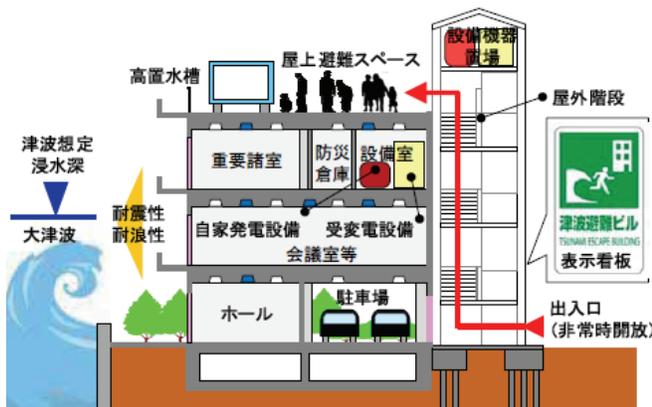
- 自家発・受変電設備を上階に設置
- 高置水槽の容量確保

早期の庁舎機能回復

- 重要諸室を上階に設置
- 総合的な耐震安全性の確保

津波避難施設としての整備

- 防災倉庫の整備
- 屋外階段(非常時解放)の設置
- 屋上を避難スペースとして整備



【官庁施設における津波対策(イメージ図)】

河川管理施設の地震・津波対策

【直轄】

東南海・南海地震に備え、堤防や水門・樋門の耐震化、水門・樋門の自動閉鎖・遠隔制御システム整備を行っています。

■耐震対策

【堤防の耐震対策事例】



地盤の改良

【水門の耐震対策事例】



門柱の補強

熊野川 → 鮎田水門

■津波対策

【避難情報の提供】



情報表示板の設置

淀川河川公園

【水門の自動閉鎖化事例】



自動でゲートを閉鎖させる

← 熊野川 市田川水門

道路の防災・震災対策

【直轄】

災害発生時における被害を軽減し、円滑かつ迅速な応急活動を支援するために、防災対策や耐震対策を引き続き実施します。

■防災対策

【法面の対策事例】



法面を安定させる対策

【落石防止網の設置事例】



■耐震対策

【橋脚補強の対策事例】



橋脚の補強

【落橋防止装置の設置事例】



河川管理施設の戦略的な維持管理・更新

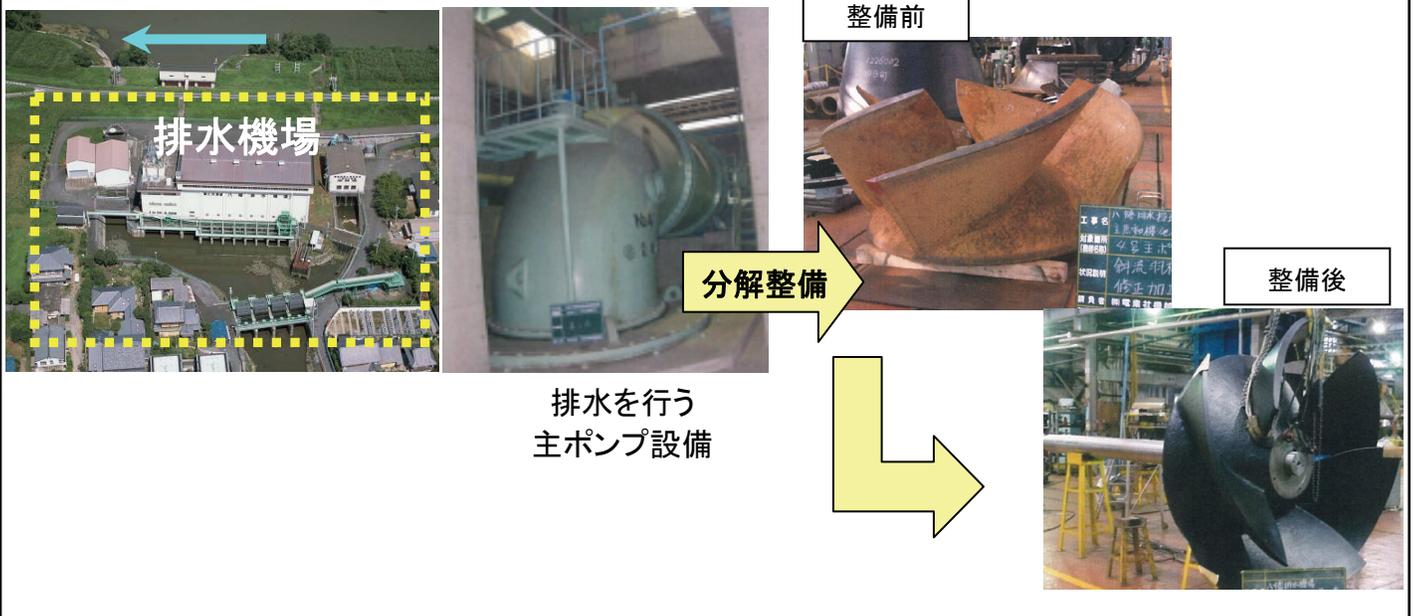
【直轄】

既存施設が所用の機能を発揮するよう、コスト縮減に努めつつ適切な維持管理を行うとともに、更新が必要な施設の増大が見込まれることを踏まえ、既存ストックの長寿命化対策等の戦略的維持管理を進めます。

河川管理施設の分解整備

堰や排水機場等の機械設備を有する施設においては、経過年数や点検結果に基づき更新対象となる構成機器の診断、健全度の評価を行い、可能な限り既存施設部品を流用・改造することで施設の延命を図ります。

排水機場の対策事例



排水を行う
主ポンプ設備

橋梁の長寿命化対策

【直轄】

高齢化する橋梁の長寿命化対策として、長寿命化修繕計画に基づき、計画的に点検や補修等を引き続き実施します。

■橋梁補修【橋桁補修の対策事例】



劣化箇所の補修



【橋脚補修の対策事例】



劣化箇所の補修

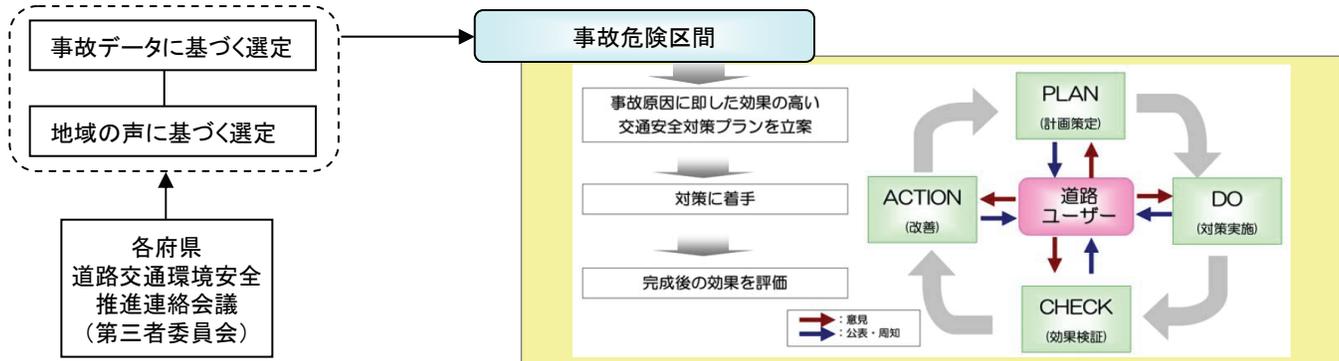


事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)の推進

【直轄】

事業の透明性・効率性を高めるため、交通事故対策事業において、データや地域の声等に基づいた、「事故ゼロプラン」の取り組みを進めています。

「事故ゼロプラン」は、事故が多発する幹線道路を対象に、事故の危険性の高い区間を選定し、重点的に対策を進めていくものです。今後、これらの区間に対し、事故要因を明らかにした上で、PLAN→DO→CHECK→ACTIONの流れに沿って対策を進めていきます。

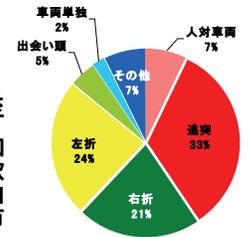


一般国道26号大浜北町交差点改良事業 (大阪府堺市堺区大浜北町)

大浜北町交差点は、国道26号が直角に曲がる交差点であり、前後区間が長い直線のため速度超過による追突事故や、交差点が広いため迷走した車による右左折事故が多発しています。本事業で、横断歩道の前だし等による交差点のコンパクト化や減速を促す路面標示等の対策を行い、事故を防止します。



整備前



▲H18～H21に発生した事故の割合



整備後



通学路等における安全で安心な歩行空間の創出

【直轄】

人優先の安全・安心な歩行空間を形成するため、通学路等において重点的に対策を実施します。

■近畿管内(直轄国道) 通学路全体延長 約294km 近畿地方整備局調べ(H24.4.1現在)

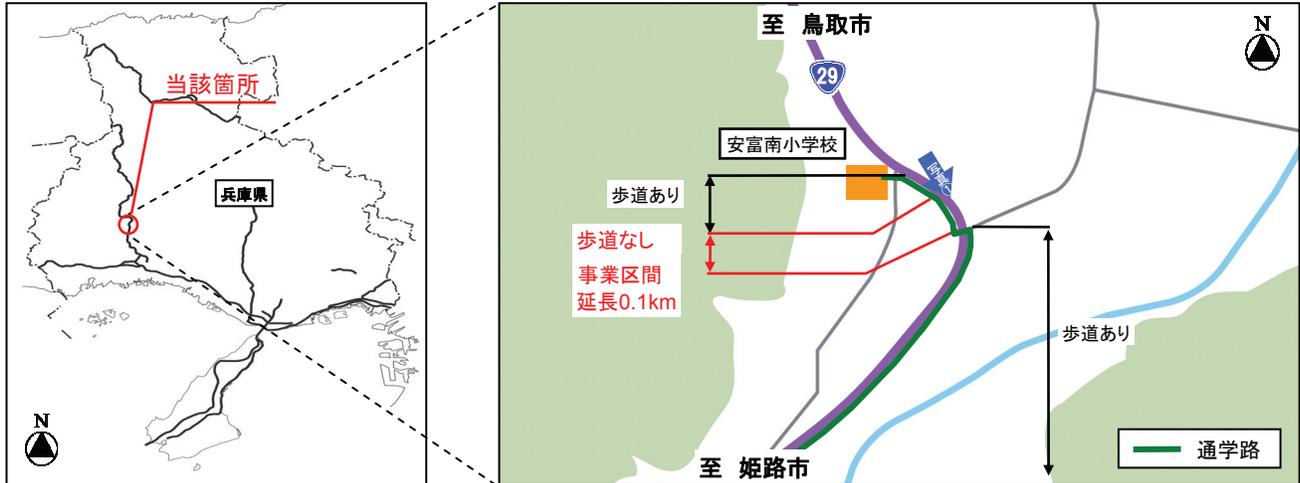


通学路における緊急合同点検

通学路について、学校・保護者等と連携して緊急合同点検を行い、また、合同点検の結果等を踏まえ、対策案の検討・対策を進めることで、安全な歩行空間を確保します。

一般国道29号安志地区歩道整備事業 (兵庫県姫路市安富町安志地先)

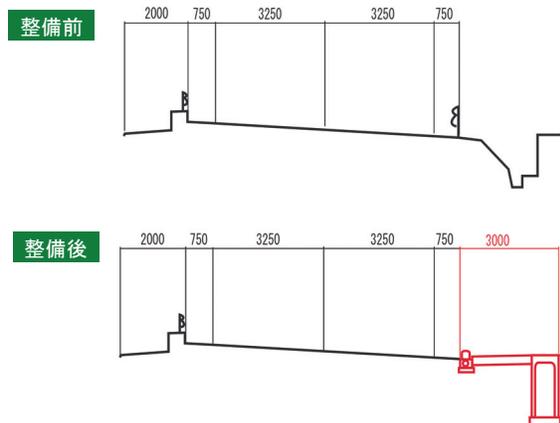
姫路市安富町安志地先の国道29号は小学校の通学路に指定されています。その区間のうち、100mが歩道未整備となっているため、児童の安全・安心な歩行空間を形成するため歩道の整備を推進します。



【歩道整備前(現況)】



【断面図】



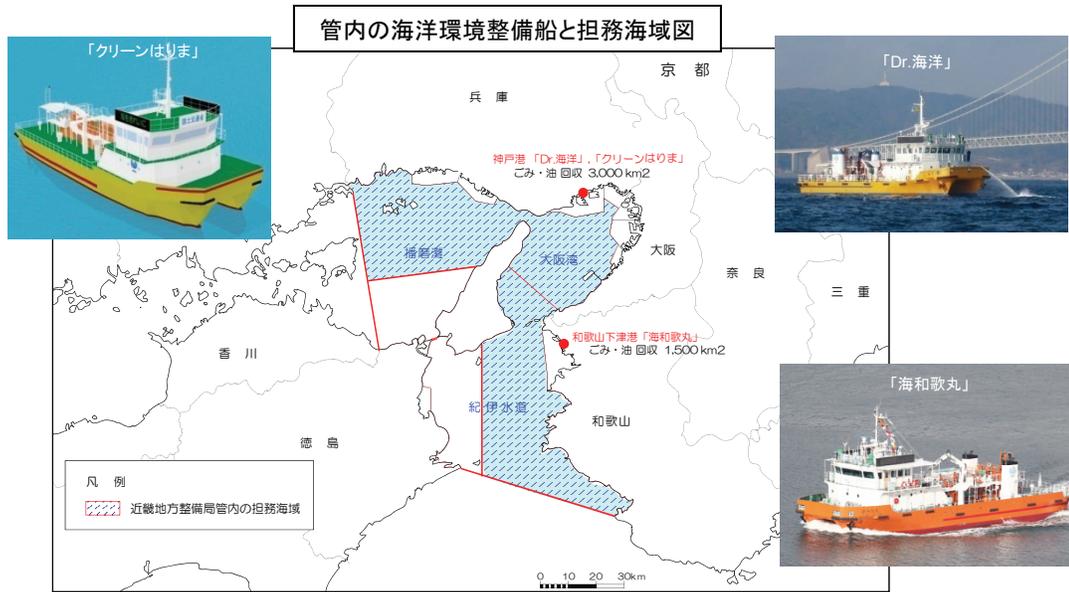
海洋環境整備事業の推進(瀬戸内海)

【直轄】

瀬戸内海における航行船舶の安全の確保、海洋の汚染の防除、良質な海洋環境保全を積極的に行うため、大阪湾・紀伊水道・播磨灘 4,500km²で海面の浮遊ごみ・浮遊油の回収業務を実施します。

《平成25年度の予定》

平成25年度から配備する「クリーンはりま」を含め3隻の海洋環境整備船を、管内の2基地(神戸港、和歌山下津港)に配置し、海面の浮遊ごみ・浮遊油の回収業務を実施します。



フェニックス事業の推進(大阪湾)

【補助】

大都市圏を中心に、内陸部での廃棄物処分場を確保することがますます困難となっているため、廃棄物の減量化、再利用の促進を前提に、廃棄物海面処分場の整備を推進します。

《平成25年度の予定》

各廃棄物海面処分場において、護岸上部工等の進捗を図ります。



護岸上部工の整備



環状道路ネットワークの整備

【直轄】

迅速かつ円滑な物流の実現、地域経済の発展、交通渋滞の緩和等のため、環状道路の整備を推進します。

京奈和自動車道は、京都、奈良、和歌山の拠点都市を結び京阪神都市圏の環状道路を構成する高規格幹線道路であり、全線の早期供用に向け、引き続き工事等を推進します。



※平成24年8月末時点

(2) 国際競争力強化に向けた活力ある国土・都市・地域の形成

一般国道24号京奈和自動車道(大和御所道路、紀北東道路)

京奈和自動車道は、京都、奈良、和歌山の拠点都市を結び近畿圏の環状道路を構成する高規格幹線道路です。京都・奈良・和歌山間の移動時間を短縮することにより観光振興を支援するとともに、地域の活性化に資する路線として期待されています。このうち大和御所道路及び紀北東道路は、一般国道24号の慢性的な交通混雑の緩和、交通事故減少などを目的とした道路であり、平成25年度に一部区間の供用を予定しています。

一般国道24号 京奈和自動車道



■ H25供用予定区間 工事状況写真



写真① 至和歌山 至京都

<大和御所道路>



写真② 至和歌山 至奈良

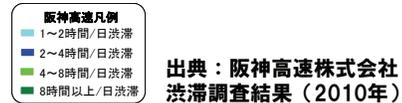
<紀北東道路>

■ 関西圏の広域的な幹線道路網の形成



京奈和自動車道は関西の環状道路の一部を形成し、大阪府中心部や交通の適切な分散導入を図り、関西圏全体の道路交通の円滑化や、地域の連携・交流の強化、業務機能の適切な分散などにより経済活動の活性化が期待されます。

【関西圏の自動車専用道路における渋滞の発生箇所】



■ 平成25年度 供用予定区間

- ・大和御所道路(大和郡山JCT~郡山南IC) L=1.6km
- ・紀北東道路(紀北かつらぎIC~打田IC) L=12.9km

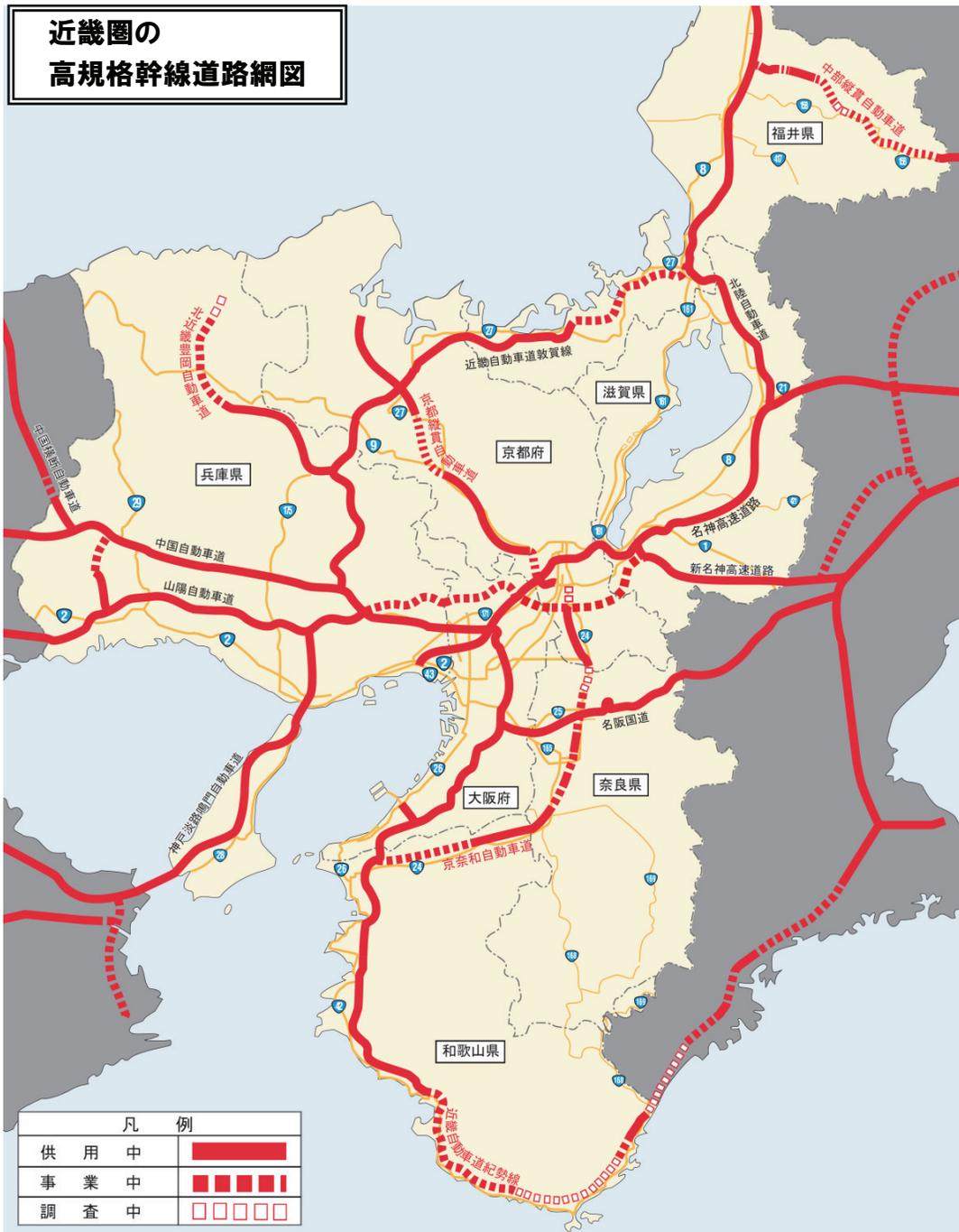
ミッシングリンクの整備

【直轄】

地域の産業・観光等を支える地域内外の交流・連携ネットワーク強化や災害に強い道路ネットワークの確保等を図るため、近畿自動車道紀勢線をはじめとする基幹となるネットワークのミッシングリンクの整備を推進します。

【主な事業】

- 近畿自動車道紀勢線 たなべ 田辺～えいすさみ
- 中部縦貫自動車道 へい永平寺大野道路
- 京都縦貫自動車道 たん丹波綾部道路
- 北近畿豊岡自動車道 よう八鹿日高道路 等



※平成24年8月末時点

近畿自動車道紀勢線(田辺～すさみ)

近畿自動車道紀勢線は、大阪府松原市を起点として、和歌山県和歌山市及び田辺市を經由し、三重県多気郡多気町に至る全長約340kmの高速自動車国道です。京阪神と紀南を結ぶ幹線道路として、輸送時間の短縮や一般道の混雑緩和を図り、地域相互の振興と発展に寄与することを目指しています。現在、紀勢線は一般有料の湯浅御坊道路と合わせ、松原JCT～南紀田辺IC間の約130kmが自動車専用道路でつながっています。今後は南紀田辺IC～すさみIC間で平成27年度の供用を予定しています。

近畿自動車道紀勢線(田辺～すさみ)

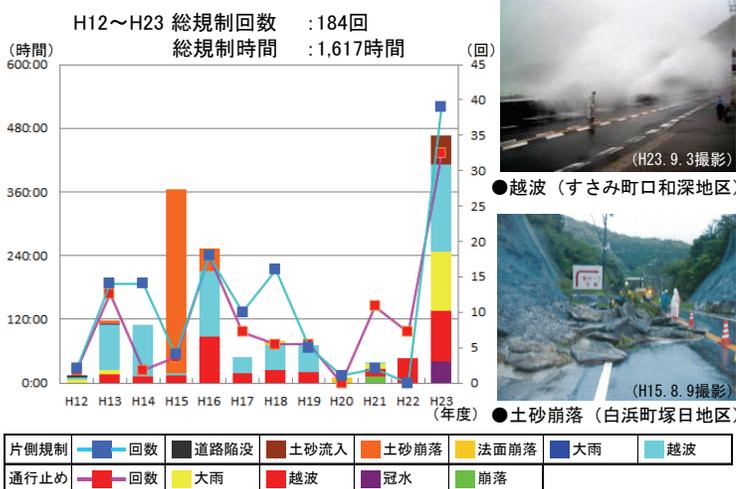


凡例	■ 供用中	■ 事業中	○ 調査中
----	--	--	--

■災害時の交通確保

紀南地方にある一般国道42号は津波や越波、土砂災害の影響を受けやすく、台風や地震があると、代わりとなる幹線道路がないため、複数の箇所で行き止まりになることが予想されます。

■国道42号の規制実施時間(左目盛)と交通規制回数(右目盛)



■工事状況写真



■観光客の増加

交通渋滞の緩和と同様に、阪和自動車道の整備は観光客の増加にも役立っています。紀勢線(田辺～すさみ)が整備されると京阪神圏や和歌山県北部からの交通が便利になり、より一層、紀南地域を訪れる人が増えると期待されます。

■紀南地域観光客数の推移



■平成25年度 事業内容

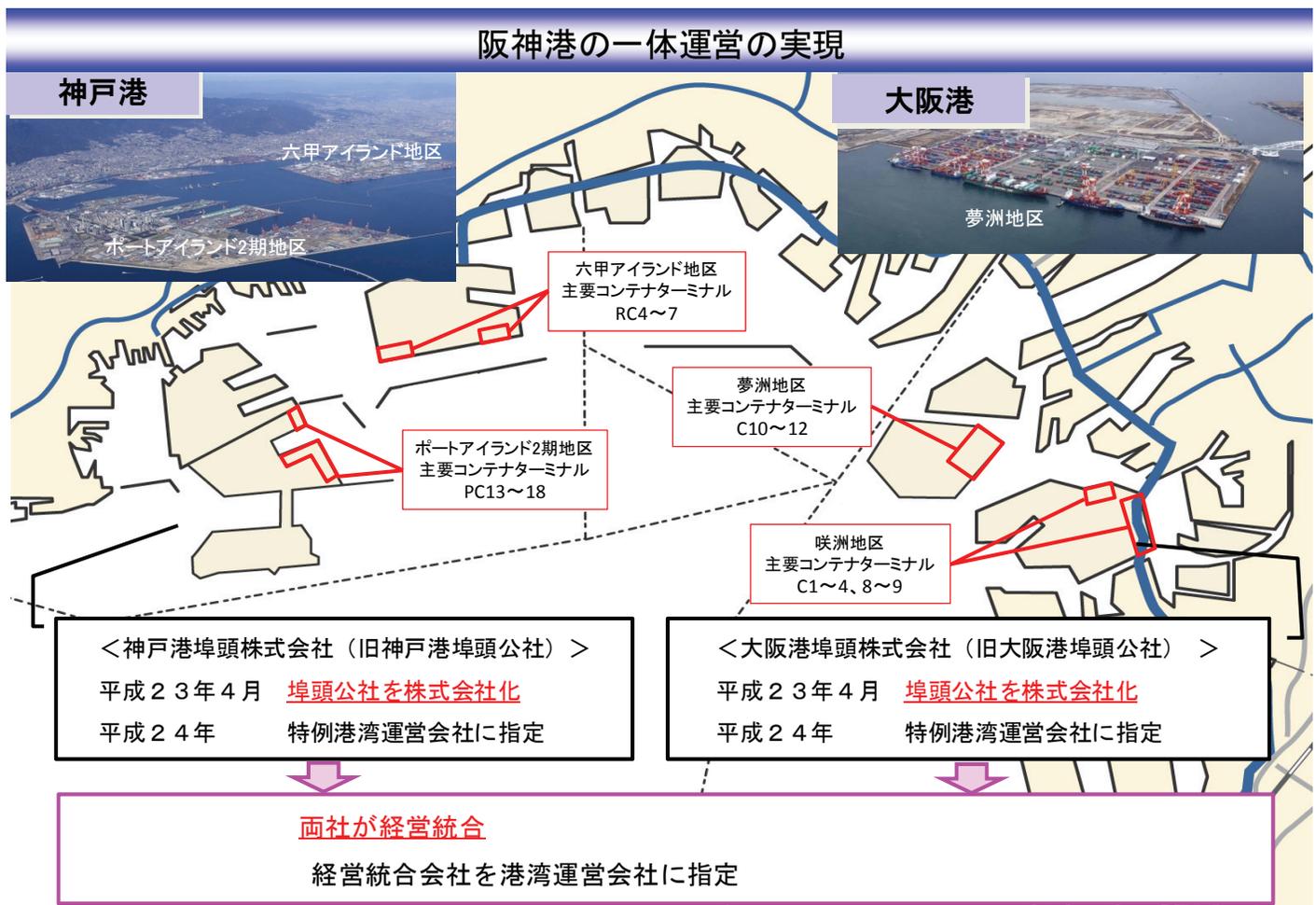
- ・近畿自動車道 紀勢線(南紀田辺IC～すさみIC) 工事、用地推進

国際コンテナ戦略港湾「阪神港」における総合的な対策

【直轄】

国際コンテナ戦略港湾「阪神港」において、ハブ機能を強化するためのインフラ整備、フィーダー網の強化による貨物集約、「民」の視点による戦略的港湾運営の実現など、国家戦略として様々な施策を総動員し、国際基幹航路の我が国への寄港を維持・拡大することにより、企業の立地環境を向上させ、我が国経済の国際競争力を強化することで、日本再生戦略の実現に資するものです。

○「民」の視点を取り込んだ阪神港の一体運営の実現



《平成25年度の予定》

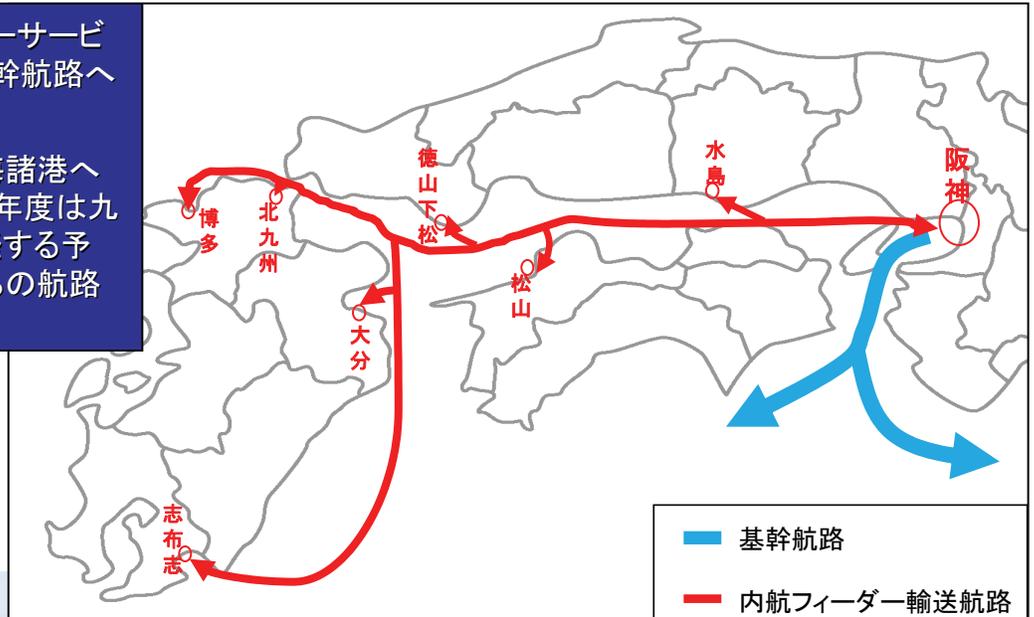
○神戸港及び大阪港において、国際基幹航路の寄港の維持・拡大を図るため、コンテナ船大型化の進展に対応した国際標準仕様を有するコンテナターミナルの整備を推進します。

(2) 国際競争力強化に向けた活力ある国土・都市・地域の形成

○釜山港等アジア諸港でトランシップされている貨物を阪神港に集約するため、フィーダー輸送機能の抜本的な強化を図るべく、広域からの貨物集約を推進します。

阪神港への内航フィーダーサービスを支援し阪神港での基幹航路への積替え輸送に転換。

※平成23年度に瀬戸内海諸港への輸送網を構築。平成24年度は九州地区への輸送網を構築する予定。平成25年度は、これらの航路に対する支援を継続。



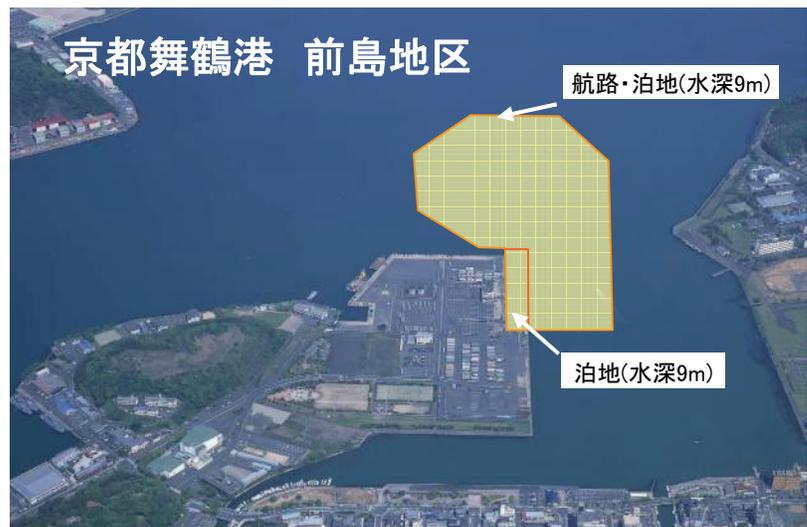
集荷を実施する大型内航コンテナ船

日本海側拠点港「京都舞鶴港」の機能強化

【直轄】

日本海側拠点港である「京都舞鶴港」の前島地区において、国内定期フェリーの大型化に対応するため、既存の複合一貫輸送ターミナルを水深9mに増深改良し、地域間交流の拡大、物流コストの削減、環境負荷の低減等を図ります。

《平成25年度の予定》
航路・泊地、泊地の増深改良を引き続き推進します。



国営公園の整備促進

【直轄】

様々なレクリエーションの提供の場、地域活性化・観光振興の拠点、環境の保全と創出、歴史・文化の保存と継承、さらに発災時には防災機能の発揮など、多様な役割を担う都市公園である国営公園を整備していきます。

■国営飛鳥・平城宮跡歴史公園

世界遺産となっている平城宮跡区域においては、第一次大極殿院の建造物の復原整備設計を進めるとともに、工事情報案内施設工事などを行います。また、飛鳥区域のキトラ古墳周辺地区においては、体験学習館の建築工事に着手します。

(平城宮跡区域)



第一次大極殿院建造物の復原整備イメージ

(飛鳥区域 キトラ古墳周辺地区)



体験学習館の整備イメージ

■国営明石海峡公園

神戸地区において、早期開園に向け、修景整備、サイン整備などを行います。

(神戸地区 棚田ゾーン)



■淀川河川公園

背割堤地区において、三川合流部サービスセンター(仮称)の整備にむけ、埋蔵文化財調査、基盤整備や園路の実設計などを行います。

(淀川河川公園 背割堤地区)



生態系の保全を促進する自然再生に係る事業

【直轄】

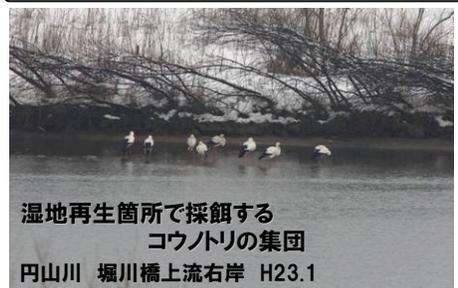
円山川水系、九頭竜川水系の取り組み

健全な生態系の保全・再生に有効な手段であるエコロジカルネットワークの形成に向けた取り組みとして、かつてコウノトリが生息していた頃の多様な生物の生息・生育・繁殖環境の再生に取り組みます。平成25年度は、円山川水系や九頭竜川水系において、委員会や協議会の意見を踏まえ湿地整備等の水際環境の保全・再生を実施します。

■円山川水系での取り組み



湿地等の再生により、鳥類の採餌場を確保。



■九頭竜川水系での取り組み



淀川水系の取り組み

天然記念物であるイタセンパラをはじめ、多種多様な淡水生物相の再生を目指し、現存するワンド群の保全と、干陸化したワンド・たまりの再生に取り組みます。

平成25年度は、淀川環境委員会(学識経験者)の意見をふまえ、関係機関と連携し、平成19年度末時点で51個あるワンドを概ね10年間で90個以上にするワンド倍増計画を継続して進めます。

この他、猪名川における魚道整備等を実施します。

■イタセンパラを目標種とした淀川中下流域での環境再生の実施



2. 主な開通予定箇所、完了予定箇所等

◆平成25年度 主な開通予定箇所（道路関係）

【直轄事業】

(1)高規格幹線道路

	府県名	路線名	箇所名	区間	
				区間	延長(km) (車線数)
1	奈良県	国道24号	京奈和自動車道 大和御所道路	大和郡山JCT ～郡山南IC	1.6km (4/4)
2	和歌山県	国道24号	京奈和自動車道 紀北東道路	紀北かつらぎIC ～打田IC	12.9km (2/4)

◆平成25年度 主な完了予定箇所（営繕関係）

(直轄事業)

事業名	工事名等	所在地
官庁営繕事業	神戸地方合同庁舎(耐震改修)	兵庫県神戸市
特定国有財産 整備事業	京都地方合同庁舎(新築整備)	京都府京都市

◆平成25年度 開通予定箇所図(道路関係)

